

大学生が村での活動を報告 福大食農実践演習オンライン報告会



オンラインでの報告会。学生からの報告に真剣に耳を傾ける杉岡村長(左)と三瓶真産業振興課長

2月17日、福島大学食農学類の報告会がオンラインで行われました。同学類は各自治体と連携協定を結び実習などを通して地域の農業振興に協力しています。報告会では、飯館村をフィールドに活動している3年生を中心に、昨年度の活動から導いた3つのテーマ「人を呼ぶ」「特産品をつくる」「農地と環境を守る」に沿ってグループごとに活動を発表。報告を受けた杉岡村長は「活動を村民などへ広く知らせたい。村に関わっていただいている皆さんもふるさとの担い手、感性を大事にして意見を寄せてほしい」と伝えました。

8年生が凍み餅づくり 手作りの大変さを実感しました



一生懸命取り組んで作った凍み餅は、油で焼いて砂糖醤油で味付けをして美味しくいただきます

1月19日と26日、「いいいて希望の里学園」の8年生が、昔ながらの食文化を理解し、食文化の継承について考えを深めるため、2週にわたって凍み餅づくりを体験しました。1週目は材料を餅つき器でこねて型に入れるまでの工程を、2週目は切り分けた凍み餅をひもで編み上げ、吊るして自然乾燥させるまでの工程を行いました。

講師を務めた細杉今朝代さん(前田)と西尾ツネさん(二枚橋)は「大きくなってこの味を忘れないうでほしい」と優しいまなざしで話していました。

「飯館牛」ブランド復活へ 新たな一歩を踏み出しています



感染症拡大防止のため3会場に分かれて黙食で試食

2月17日、交流センター「ふれ愛館」で『飯館産牛肉商品開発試食会』が行われました。今回使用した牛肉は、福島大学と共同で行う「飯館牛再ブランド化プロジェクト」を通して村内で育てられた牛のお肉です。震災前から村と関わる(株)山際食彩工房(山際博美代表取締役/会津若松市)の「飯館産牛肉の商品開発をしたい」という要望が村の意向と合致し商品の試作に至りました。メニューは煮込みハンバーグや混ぜご飯など。「飯館牛」ブランド復活に向けた取り組みは、着実に始まっています。

水田活用の直接支払交付金 減額見直しの要望



国への要望を申し合わせました。左から青田さん、杉岡村長、佐藤村議会議長、佐藤さん、細川さん

2月4日、「JAふくしま未来」そうま地区稲作部会飯館支部の青田豊実さん(前田)、同そうま和牛改良組合飯館支部の佐藤豊洋さん(飯樋町)、13区営農組合の細川強さん(上飯樋)らが、村と村議会に要望書を提出しました。国の「水田活用の直接支払交付金」減額見直しの要望です。主食米から飼料用米に転換した人もある中「減額は生産者の意欲をそぐ」「今後の計画にも影響する」と危機感を訴えました。杉岡村長は、村としても国に見直しを求めていることを伝え、さらなる協力を約束しました。

「メルカリ寄付」ご支援に感謝 復興事業に活用していきます



「メルカリ」のユーザーがスマホ決済サービス「メルペイ」を活用して寄付できるシステムです

オンライン上でフリーマーケットのように個人間での売買ができる「フリマアプリ」の「メルカリ」では、ユーザーがメルペイ(メルカリの他全国の店舗等で利用できるスマホ決済サービス)から自治体に寄付できる「メルカリ寄付」を実施しています。飯館村も昨年10月からこの「メルカリ寄付」の対象自治体として登録されていて、10月から12月の3か月間で81件、合わせて約4万円の寄付をいただいています。全国の皆様のご支援、本当にありがとうございます。寄付は「飯館牛」復活プロジェクトに活用させていただきます。

内堀雅雄福島県知事が ライスセンターを視察しました



ライスセンターで連携と協力を誓い合う(左から)内堀知事、杉岡村長、川井センター長、濱田代表理事

2月8日、内堀雅雄福島県知事が飯館村を訪問。村役場で杉岡村長と意見交換を行い、「飯館村ライスセンター」を視察しました。視察には、杉岡村長と共に、JAふくしま未来の濱田賢次代表理事、川井智洋飯館営農センター長が同行し、出荷米の質をより高める選別の機能などを紹介。視察を終えた内堀知事は、「飯館村の復興は、途上ではあるが着実に進んでいる。農業再生への取り組みが連携して広がっていくことを期待します」と述べ、一同が協力を申し合わせました。